

# Acronis



# Acronis Cloud Backup アドバンスト

## 該当する製品

Acronis Backup Advanced for Windows Server  
Acronis Backup Advanced for Linux Server  
Acronis Backup Advanced for PC  
Acronis Backup Advanced for VMware / Hyper-V / RHEV / Citrix XenServer / Oracle VM  
Acronis Backup Advanced for SQL  
Acronis Backup Advanced for SharePoint  
Acronis Backup Advanced for Active Directory  
Acronis Backup for Windows Server Essentials

ユーザーズ ガイド

## 目次

<b>1</b>	<b>Acronis Cloud Backup の概要</b>	<b>4</b>
1.1	Acronis Cloud Backup とは	4
1.2	バックアップおよび復元の対象データ	4
1.3	クラウド ストレージにバックアップが保存される期間	5
1.4	データのセキュリティ保護方法	5
1.5	クラウド ストレージへの仮想コンピュータのバックアップ方法	5
1.6	サポートされるオペレーティング システムと仮想化製品	6
1.7	バックアップと復元の FAQ	8
1.7.1	使用可能なバックアップ メソッド	8
1.7.2	使用可能な復元方法	8
1.7.3	クラウド ストレージは Acronis ブータブル メディアで使用可能ですか？	8
1.7.4	クラウド ストレージからのシステムの復元時に Acronis Universal Restore を使用できますか？	8
1.7.5	クラウド バックアップまたは復元中にネットワーク接続が失われるとどうなりますか？	9
1.7.6	空き容量がなくなった場合の動作	9
1.7.7	クリーンアップ タスクの目的	9
1.7.8	復元したコンピュータでサブスクリプションを認識する方法	9
1.8	サブスクリプションのライフサイクルの FAQ	10
1.8.1	アカウント管理 Web ページへのアクセス方法	10
1.8.2	購入したサブスクリプションはどこで見つかりますか？	10
1.8.3	サブスクリプションの開始時期	10
1.8.4	サブスクリプションの有効期限が切れるとどうなりますか？	10
1.8.5	サブスクリプションはどのように更新しますか？	11
1.8.6	「グループ」列の目的は何ですか？	12
1.8.7	コンピュータからサブスクリプションを取り消すことはできますか？	12
1.8.8	サブスクリプションをキャンセルできますか？	12
<b>2</b>	<b>どこから開始すればよいですか？</b>	<b>12</b>
<b>3</b>	<b>サブスクリプションの選択</b>	<b>13</b>
<b>4</b>	<b>ソフトウェア インストール</b>	<b>14</b>
4.1	インストールする必要があるソフトウェア	14
4.2	Acronis Backup Advanced について	14
4.3	サポートされるオペレーティング システム	15
4.4	Acronis Backup Advanced のインストール	16
<b>5</b>	<b>Acronis Backup の起動</b>	<b>18</b>
<b>6</b>	<b>プロキシ設定の構成</b>	<b>18</b>
<b>7</b>	<b>クラウド バックアップのサブスクリプションのアクティブ化</b>	<b>19</b>
7.1	Acronis Backup Advanced でのサブスクリプションの有効化	20
7.2	有効化されているサブスクリプションの再割り当て	20

<b>8</b>	<b>クラウド バックアップ専用の集中管理用格納域の作成.....</b>	<b>22</b>
<b>9</b>	<b>クラウド ストレージへのバックアップ .....</b>	<b>22</b>
9.1	個々のコンピュータのバックアップ.....	23
9.2	複数のコンピュータのバックアップ.....	23
<b>10</b>	<b>クラウド格納域に保存されているバックアップへのアクセス.....</b>	<b>24</b>
<b>11</b>	<b>クラウド ストレージに保存されているバックアップの操作 .....</b>	<b>25</b>
<b>12</b>	<b>クラウド ストレージからのバックアップ.....</b>	<b>25</b>
12.1	ファイルの復元 .....	25
12.2	ボリュームの復元 .....	26
12.3	大規模復元を使用した復元 .....	26
<b>13</b>	<b>Web ブラウザを使用したクラウド ストレージからのファイルの取得 .....</b>	<b>27</b>
<b>14</b>	<b>クラウド ストレージの制限.....</b>	<b>29</b>
<b>15</b>	<b>テクニカル サポート.....</b>	<b>29</b>
<b>16</b>	<b>用語集.....</b>	<b>32</b>

このドキュメントでは、**Acronis Cloud Backup** を活用することでクラウド バックアップに **Acronis Backup Advanced** を使用方法について説明します。

**Acronis Backup Advanced** を使用すると、管理サーバーと呼ばれる単一のサーバーを使用して複数のコンピュータのバックアップを管理することができます。このサーバーは、バックアップ インフラストラクチャへの単一のエントリ ポイントと、監視およびレポート機能を提供します。さらに、個々のサーバーやワークステーションのバックアップを設定することもできます。

このドキュメントには、**Acronis Cloud Backup** の概要、および一般的なソフトウェアのインストールと使用のシナリオに関する詳細な手順が記載されています。これらの手順は、**Acronis Backup Advanced** の知識があまりなく、初めてクラウド バックアップを使用するというユーザーを対象にしています。**Acronis Backup Advanced** が提供する機能の詳細については、同製品のヘルプを参照してください。F1 を押すことで、すべてのプログラム ウィンドウで状況依存ヘルプを利用できます。

## 1 Acronis Cloud Backup の概要

このセクションには、**Acronis Cloud Backup** の簡単な概要と、この製品の評価および使用中に生じる可能性がある質問への回答が記載されています。

### 1.1 Acronis Cloud Backup とは

**Acronis Cloud Backup** は、**Acronis Cloud Storage** にデータをバックアップできるようにするサービスです。このサービスを使用するには、サブスクリプションを購入して、バックアップのために予約するストレージ領域の量（ストレージ クォータ）、およびクラウド バックアップ サービスを使用できる期間を決定する必要があります。

サブスクリプションの例:

- 1 TB のボリューム サブスクリプションは、物理コンピュータや仮想コンピュータ（数量は無制限）のデータを 1 年間バックアップできるという意味です。バックアップが占有できる領域は、最大 1 TB です。
- PC 用サブスクリプションは、サーバーでない **Windows** オペレーティング システムを実行するコンピュータのデータを 1 年間バックアップできるという意味です。ストレージ クォータは無制限です。

### 1.2 バックアップおよび復元の対象データ

ファイル、ボリューム、ディスク、または物理コンピュータ全体を、必要な頻度でバックアップできます。多くのクラウド バックアップ ソリューションとは異なり、**Acronis Cloud Backup** ではクラウド ストレージから直接ベア メタル復元を実行できます。ディスク レベルのバックアップからも、ファイル レベルのバックアップからと同様にファイルを復元できます。

仮想コンピュータのバックアップの詳細については、「クラウド ストレージに仮想コンピュータをバックアップする方法 『5ページ』」を参照してください。

## 1.3 クラウド ストレージにバックアップが保存される期間

バックアップは、削除するかサブスクリプションの有効期限が切れるまでクラウド ストレージに保持されます。クラウド ストレージからのデータの復元は、サブスクリプションの有効期限後 30 日間行うことができます。

ストレージ領域を効果的に使用するために、**[次より古いバックアップは削除する]** 保持ルールを設定するオプションがあります。

### 例

ファイル サーバーに次のバックアップ戦略を使用できます。

スケジュールに従って 1 日に 2 回重要なファイルをバックアップします。保持ルール **[次より古いファイルバックアップを削除する]** を 7 日に設定します。これは、すべてのバックアップ後に 7 日より古いバックアップが確認され、自動的に削除されることを意味します。

サーバーのシステム ボリュームのバックアップを必要に応じて手動で実行します。オペレーティング システムの更新後などです。不要なバックアップを手動で削除します。

## 1.4 データのセキュリティ保護方法

バックアップは、AES (Advanced Encryption Standard) 暗号化アルゴリズムおよび設定したパスワードを使用して暗号化することができます。これによって、データが他人からアクセスされないことが保証されます。

## 1.5 クラウド ストレージへの仮想コンピュータのバックアップ方法

次のいずれかの方法または両方の方法を使用します。

### Acronis ソフトウェアを仮想化ホストにインストールします

この方法は、ホスト サーバーにインストールされている仮想化製品が VMware ESX(i) または Microsoft Hyper-V である場合に便利です。

---

ホストベース バックアップは VMware ESXi の有料ライセンスでのみ使用できます。ESXi で無料ライセンスを使用する場合、このセクションで後述する代替の方法を選択してください。

---

この方法では、1 つ以上の Acronis エージェントを仮想化ホストまたは専用の Windows コンピュータにインストールします。各エージェントは、サーバーに単一のサブスクリプションを使用することで複数の仮想コンピュータをバックアップできます。そのため、エージェントの数と同じ数のサブスクリプションが必要です。または、エージェントは、他の仮想コンピュータまたは物理コンピュータと共有できるボリューム サブスクリプションを使用することができます。

仮想コンピュータ全体または個々のディスクとボリュームをバックアップして復元できます。さらに、個々のファイルやフォルダを、エージェントのローカル ファイル システム

(Windows のみ)、ネットワーク共有、FTP、または SFTP サーバーに復元できます。ファイルを仮想コンピュータのファイル システムに直接復元することはできません。

ソフトウェアのインストール、バックアップ、および復元については、Acronis Backup Advanced の「仮想コンピュータのバックアップ」のドキュメントで説明します。クラウド バックアップ専用 Acronis Backup をインストールする場合、インストール中にプロダクトキーの入力は必要ありません。

ESX(i) コンピュータはエージェント間に自動的に再配分されることがあるため、コンピュータが常に同じサブスクリプションを使用するように、コンピュータをそのエージェントに手動でバインドする必要があります。

## Acronis ソフトウェアをゲスト システムにインストールします

この方法は次のような状況で役立ちます。

- コンピュータが仮想サーバーでホストされていない
- ホスト サーバーにインストールされた仮想化製品が VMware ESX(i) または Microsoft Hyper-V ではない
- 独立ディスク、または実行中の ESX(i) コンピュータ上で物理互換モードで接続されている RDM ディスクをバックアップする場合
- Hyper-V 仮想コンピュータのパス スルー ディスクをバックアップする場合
- 仮想コンピュータでバックアップの前後に実行するコマンドまたはデータ取り込みの前後に実行するコマンドを使用する場合
- 仮想コンピュータの個々のファイルとフォルダをバックアップする場合
- ファイルを仮想コンピュータのファイル システムに直接復元する場合

この仮想コンピュータは、物理コンピュータとして扱われます。ボリューム サブスクリプションがない場合、このコンピュータ用に別のサーバーまたは PC サブスクリプションが必要です。

ソフトウェアのインストール、バックアップ、および復元は、物理コンピュータの場合と同じです。

## 1.6 サポートされるオペレーティング システムと仮想化製品

Acronis Cloud Backup は、次のオペレーティング システムおよび仮想化プラットフォームをサポートします。

### サーバー オペレーティング システム

#### Windows

Windows Server 2003/2003 R2: Standard、Enterprise の各エディション (x86、x64)

Windows Small Business Server 2003/2003 R2

Windows Server 2008: Standard、Enterprise、Datacenter、Web の各エディション (x86、x64)

Windows Small Business Server 2008

Windows Server 2008 R2: Standard、Enterprise、Datacenter、Foundation、Web の各エディション

Windows MultiPoint Server 2010/2011/2012

Windows Small Business Server 2011: すべてのエディション

Windows Server 2012/2012 R2: すべてのエディション

Windows Storage Server 2003/2008/2008 R2/2012/2012 R2

## Linux

2.4.20 ~ 3.16 のカーネルおよび glibc 2.3.2 以降を搭載した Linux

次を含む Various x86 および x86\_64 Linux ディストリビューション

Red Hat Enterprise Linux 4.x、5.x、6.x、7.x

Ubuntu 9.10、10.04、10.10、11.04、11.10、12.04、12.10、13.04、13.10、14.04、14.10

Fedora 11、12、13、14、15、16、17、18、19、20、21

SUSE Linux Enterprise Server 10 および 11

SUSE Linux Enterprise Server 12 – Btrfs を除くファイル システムでサポート

Debian 4、5、6、7.0、7.2、7.4、7.5、7.6、7.7

CentOS 5.x、6.x、7.0

Oracle Linux 5.x、6.x、7.0: Unbreakable Enterprise Kernel と Red Hat Compatible Kernel の両方

CloudLinux 6.x

RPM パッケージ マネージャを使用していないシステム (Ubuntu システムなど) に製品をインストールする場合は、インストールの前に、ルート ユーザーとして次のコマンドを実行するなどしてこのマネージャを手動でインストールする必要があります。 **apt-get install rpm**

## ワークステーション オペレーティング システム

Windows XP Professional SP2 以降 (x86、x64)

Windows Vista: Vista Home Basic および Vista Home Premium を除くすべてのエディション (x86、x64)

Windows 7: Starter および Home Edition を除くすべてのエディション (x86、x64)

Windows 8/8.1: Windows RT Edition を除くすべてのエディション (x86、x64)

## 仮想化製品 (仮想コンピュータのホストベースのバックアップ)

VMware ESX(i) 4.0、4.1、5.0、5.1、5.5、6.0

(ホストベースのバックアップは VMware ESXi の有料ライセンスでのみ使用できます)

Windows Server 2008 (x64) (Hyper-V 使用)

Windows Server 2008 R2 (Hyper-V 使用)

Microsoft Hyper-V Server 2008/2008 R2

Windows Server 2012/2012 R2 (Hyper-V 使用)

Microsoft Hyper-V Server 2012/2012 R2

Windows Server 8、8.1 (x64) (Hyper-V 使用)

## 1.7 バックアップと復元の FAQ

このセクションでは、バックアップ プロセスと復元プロセスに関連する質問の回答を示します。

### 1.7.1 使用可能なバックアップ メソッド

複数のバックアップ スキームを使用して、完全または増分バックアップ メソッドを利用できます。バックアップ スキームに関係なく、最初にタスクを実行すると完全バックアップが作成され、それ以降のタスク実行により増分バックアップが作成されます。次のバックアップ スキームを使用できます。

- **手動による開始**（延期された開始）。手動でタスクを再実行できます。
- **シンプル**（スケジュールされた開始）。このバックアップ スキームを使用すると、保持ルールを設定して古いバックアップを自動的に削除することができます。
- **GFS（Grandfather-Father-Son）**（スケジュールされた開始）。週単位のバックアップおよび月単位のバックアップと見なされる、日単位のバックアップを指定します。日単位、週単位、および月単位のバックアップに応じて、個別の保持ルールを設定できます。
- **ハノイの塔**（スケジュールされた開始）。レベルの数を設定します。これは、一度に保存されるバックアップの数です。新しい日付に多くの復元ポイントを残し、古い日付には少ない復元ポイントを残すという方法で、余分なバックアップは削除されます。
- クラウド バックアップにのみ使用できる追加のバックアップ スキームは、**初期シード**です。このスキームを使用すると、ローカルのバックアップ先へのバックアップが、完全バックアップ メソッドを使用してすぐに開始されます。このスキームを使用するには、初期シードサービスのライセンスが必要です。

### 1.7.2 使用可能な復元方法

データを Acronis クラウド ストレージから復元するには、次の 2 つの方法があります。

- **Acronis Backup GUI** またはコマンド ライン インターフェイスを使用した、ディスクまたはファイルの復元『25ページ』。この方法では、さまざまな **Acronis Backup** 機能を使用できます。
- ウェブ ブラウザを使用した、ファイルレベルのバックアップからのファイルの取得『27ページ』この操作に必要なのは、インターネット アクセス機能を備えたコンピュータのみです。

### 1.7.3 クラウド ストレージは Acronis ブータブル メディアで使用可能ですか？

**Acronis Cloud Storage** からの復元は使用可能ですが、ストレージへのバックアップは使用できません。

### 1.7.4 クラウド ストレージからのシステムの復元時に **Acronis Universal Restore** を使用できますか？

はい。クラウド ストレージからシステムを復元する場合、**Acronis Universal Restore** をいつでも使用することができます。



## 1.7.5 クラウド バックアップまたは復元中にネットワーク接続が失われるとどうなりますか？

30 秒ごとにクラウド ストレージへのアクセスが試行されます。試行は、接続が再開されるか、または特定の回数の試行が行われるとすぐに、いずれか早い方の時点で停止します。デフォルトの試行回数は、バックアップのときは 300 で、復元のときは 30 です。

試行回数と試行間隔は、[エラー処理]>[エラーが発生した場合は再試行する] オプションで変更できます。すべてのバックアップ計画または復元タスクにこのオプションが含まれています。

## 1.7.6 空き容量がなくなった場合の動作

コンピュータのバックアップが、そのサブスクリプションによって割り当てられているストレージ領域を超えそうな場合には、アラートに関する電子メール通知が届きます。さらに、このアラートは、アカウント管理 Web ページのコンピュータの近くにも表示されます。これは、将来のバックアップのために領域の一部を解放する必要があるということです。または、ストレージ クォータを増やすことを考えてもよいでしょう。あるいは、将来オーバーフローが発生しないように、保持ルール『5ページ』を設定または編集することもできます。使用中の領域が制限値に達すると、バックアップは停止します。

## 1.7.7 クリーンアップ タスクの目的

保持ルールが設定されているバックアップ計画には、バックアップ タスクの他にクリーンアップ タスクが含まれています。クリーンアップ タスクは、有効期限より長く存続するバックアップの有無を、バックアップ計画によって作成されたアーカイブで確認します。そのようなバックアップが見つかった場合、タスクはクラウド ストレージでそのバックアップを削除します。そのような削除はクラウド ストレージ側で実行されるため、コンピュータの CPU リソースは使用されません。

クリーンアップ タスクは、バックアップが失敗した場合でも、すべてのクラウド バックアップ後に実行されます。ただし、保持されるのは常に、最後に正常に終了したバックアップです。保持ルールの詳細については、「クラウド ストレージにバックアップが保存される期間『5ページ』」を参照してください。

通常、クリーンアップ タスクを手動で開始して停止する必要はありません。ただし、[バックアップの計画およびタスク] ビューで行うことは可能です。

## 1.7.8 復元したコンピュータでサブスクリプションを認識する方法

バックアップから物理コンピュータを復元すると、新しいコンピュータの ID が作成されます。そのため、復元前に使用していたサブスクリプションを使用してそのコンピュータをバックアップすることができません。

引き続き同じサブスクリプションを使用してコンピュータをバックアップするには、そのサブスクリプションをコンピュータに再割り当て『20ページ』します。再割り当てすると、次のコンピュータのバックアップが増分バックアップになる場合があります。新しいサブ

スクリプションをコンピュータに割り当てた場合は、必ず新しい完全バックアップが作成されます。

## 1.8 サブスクリプションのライフサイクルの FAQ

このセクションでは、サブスクリプションのライフサイクルと、アカウント管理 Web ページで実行できるサブスクリプションの操作について説明します。

### 1.8.1 アカウント管理 Web ページへのアクセス方法

<http://www.acronis.co.jp/my/cloud-backup/corporate> にアクセスして、アカウントにログインします（登録していない場合はアカウントを作成します）。

Acronis Backup からこの Web ページにアクセスする手順は、次のとおりです。

1. **[アクション]** メニューの **[今すぐバックアップ]** または **[バックアップ計画の作成]** をクリックします。
2. **[ロケーション]** をクリックして、**[サブスクリプションの購入または管理]** をクリックします。
3. アカウントにログインします（登録していない場合はアカウントを作成します）。

### 1.8.2 購入したサブスクリプションはどこで見つかりますか？

サブスクリプションを Acronis パートナーから購入した場合、各サブスクリプションの登録コードを確認する電子メールを受信したはずです。アカウント管理 Web ページにアクセスして、**[新しい登録コードの入力]** をクリックして、登録コードを入力します。サブスクリプションが、**[サブスクリプションの管理]** タブの利用可能なサブスクリプションの一覧に表示されます。

サブスクリプションを登録する別の方法は、Windows での Acronis Backup のローカル インストール中に登録コードを入力する方法です。

Acronis Web サイトから購入したサブスクリプションは、このタブですぐに利用可能になります。

### 1.8.3 サブスクリプションの開始時期

**ボリューム** サブスクリプションのサブスクリプション期間は、購入時に開始されます。

**コンピュータ** サブスクリプションのサブスクリプション期間は、サブスクリプションがコンピュータで有効化されるとすぐに開始されます。

### 1.8.4 サブスクリプションの有効期限が切れるとどうなりますか？

サブスクリプションの有効期限の 1 カ月前に、アラートとともに電子メール通知を受信します。さらに、このアラートは、アカウント管理 Web ページのコンピュータの近くにも表示されます。これは、コンピュータのバックアップを続行するには、サブスクリプションを更新『11ページ』する必要があることを意味します。

サブスクリプションを更新しない場合、有効期限から 5 日間クラウド ストレージにデータをバックアップできます。有効期限から 30 日間はクラウド ストレージからデータを復元できます。

## 1.8.5 サブスクリプションはどのように更新しますか？

別のサブスクリプションを購入して、同じコンピュータの次のサブスクリプションとして指定します。新しいサブスクリプションは、現在のサブスクリプションの有効期限が切れるとすぐに有効化されます。

有効期限が切れたサブスクリプションは、有効期限後 5 日以内に更新できます。その場合、新しいサブスクリプションはすぐに有効化されます。

### 1.8.5.1 単一のサブスクリプションの更新

有効化されているサブスクリプションを、同じかそれ以上のストレージ クォータを持つサブスクリプションに更新できます。

**ボリューム** サブスクリプションを更新するには、**ボリューム** サブスクリプションが必要です。**コンピュータ** サブスクリプションを更新するには、同じ種類の**コンピュータ** サブスクリプションまたは**ボリューム** サブスクリプションが必要です。

仮想コンピュータのサブスクリプション（現在は非推奨）は、**サーバー** サブスクリプションまたは**ボリューム** サブスクリプションに更新できます。

#### **ボリューム サブスクリプション**

**ボリューム** サブスクリプションを更新するには、アカウント管理 **Web** ページにアクセスして、**ボリューム** サブスクリプションの横にある **[更新]** をクリックして、画面の指示に従います。

新しい有効期限は **[有効期限]** 列に表示されます。

- 新しいサブスクリプションと古いサブスクリプションのストレージ クォータが同じ場合、サブスクリプション期間は合計されます。
- 新しいサブスクリプションのストレージ クォータの方が大きい場合、結果のサブスクリプション期間は再計算されます。

#### **コンピュータ サブスクリプション**

**コンピュータ** サブスクリプションを更新するには、アカウント管理 **Web** ページにアクセスして、サブスクリプションを更新するコンピュータを見つけてそのコンピュータの横にある **[更新]** をクリックして、画面の指示に従います。

新しいサブスクリプションが、そのコンピュータの **[次のサブスクリプション]** 列に表示されます。

### 1.8.5.2 有効化されている多数のサブスクリプションを一度に更新する

この操作は、適切な数の新しいサブスクリプションが、現在使用されているサブスクリプションと同じ場合に行うことができます。

新しいサブスクリプションが、アカウント管理 Web ページで利用可能であることを確認してください。その後、**[すべて更新]** をクリックします。確認ウィンドウに、更新されるサブスクリプションの概要が示されます。一部のコンピュータで同一のサブスクリプションが見つからない場合、自動更新をキャンセルして、各サブスクリプションを個別に更新することもできます。

### 1.8.5.3 「自動更新」とはどのような意味ですか？

自動更新は、現在のサブスクリプションの有効期限が切れたときに、利用可能なサブスクリプションから次のサブスクリプションが自動的に選択されることを意味します。次のサブスクリプションは、現在のサブスクリプションと同じである必要があります。

同一のサブスクリプションが見つからない場合、自動更新は行われず、バックアップは失敗する可能性があります。サブスクリプションは自動的に購入されません。自動更新の時点で利用可能なサブスクリプションのみを使用できます。サブスクリプションごとに自動更新を選択するか、有効化されているすべてのサブスクリプションの一括自動更新を設定することができます。

### 1.8.6 「グループ」列の目的は何ですか？

**[すべて更新]** や **[すべて自動更新]** などのアクションを、選択したサブスクリプションに適用できます。グループ化する各サブスクリプションの近くで、目的のグループ名（たとえば、SalesDept）を指定します。**[グループ]** 列ヘッダーをクリックしてサブスクリプションを並べ替えてから、目的のアクションをグループに適用します。

### 1.8.7 コンピュータからサブスクリプションを取り消すことはできますか？

利用可能なサブスクリプションの一覧に有効化されているサブスクリプションを返却することはできませんが、Acronis Backup GUI で別のコンピュータに再割り当て『20ページ』することはできます。

### 1.8.8 サブスクリプションをキャンセルできますか？

サブスクリプションの有効期限が切れるまで待ってください。クラウド バックアップ サブスクリプションの返金はできません。

## 2 どこから開始すればよいですか？

<http://www.acronis.co.jp/my/cloud-backup/corporate> にアクセスして、アカウントにログインします（登録していない場合はアカウントを作成します）。これがアカウント管理 Web ページです。ここで、試用サブスクリプションを取得して、Acronis パートナーを見つけるか、サブスクリプションをオンラインで購入できます。新たに取得したサブスクリプションは、**[サブスクリプションの管理]** タブに利用可能なサブスクリプションとして表示されます。

Acronis パートナーからサブスクリプションを購入した場合、**[新しい登録コードの入力]** リンクを使用して手動で登録してください。登録コードは、購入の確認電子メールに記載されています。

次に、Acronis ソフトウェア 『14ページ』 (まだインストールしていない場合) をインストールし、Acronis Cloud Storage へのバックアップを開始します。

## 3 サブスクリプションの選択

### ボリューム サブスクリプション

**ボリューム** サブスクリプションを使用すると、物理コンピュータや仮想コンピュータ (数量は無制限) をバックアップできます。バックアップされたすべてのコンピュータが共通のストレージ クォータを共有します。サブスクリプション期間は、購入時に開始されます。

### コンピュータ サブスクリプション

**コンピュータ** サブスクリプションを使用すると、単一の物理コンピュータ、または 1 つのエージェント **for VMware** またはエージェント **for Hyper-V** によって管理されるすべての仮想コンピュータのいずれかをバックアップできます。ストレージ クォータは、この物理コンピュータ、またはエージェントによって管理されるすべての仮想コンピュータに適用されます。サブスクリプション期間は、サブスクリプションをコンピュータで有効化すると開始されます。

物理コンピュータの場合、コンピュータで実行されているオペレーティング システムに基づいて、**サーバー**用サブスクリプションまたは **PC** 用サブスクリプションを選択します。コンピュータがサーバーであるかワークステーションであるかわからない場合は、サポートされるオペレーティング システム 『6ページ』 の一覧を参照してください。

エージェント **for VMware** またはエージェント **for Hyper-V** によって管理される仮想コンピュータの場合、サーバー サブスクリプションを使用します。仮想コンピュータのバックアップに加えて、このサブスクリプションではその物理ホストをバックアップできます。

バックアップがサブスクリプションのストレージ クォータを超える可能性がある場合は、ワークステーションでサーバー サブスクリプションを使用することができます。この反対に使用することはできません。PC 用サブスクリプションを使用してサーバーをバックアップすることはできません。

### 試用サブスクリプション

アカウントごとに 1 つの無料の試用サブスクリプションを取得できます。試用サブスクリプションを使用すると、単一のコンピュータをバックアップできます。サブスクリプション期間は 1 カ月に制限されます。

試用サブスクリプションの取得は、有料サブスクリプションを購入するまで可能です。試用サブスクリプションは、有料サブスクリプションと併用することができます。試用サブスクリプションと有料サブスクリプションに同じ有効期限ルールが適用されます。

試用サブスクリプションの有効期限切れ後にサービスを引き続き使用するには、サブスクリプションを購入し、有料サブスクリプションを指定して試用サブスクリプションを更新します。バックアップしたデータは保持されます。コンピュータの定期的なバックアップは中断されずに続行されます。サービスは新しい完全バックアップを実行する必要はありません。

試用サブスクリプションを取得するには、次のいずれかの手順を実行します。



- アカウント管理 Web ページで、クラウド バックアップの試用リンクをクリックしてから、必要なサブスクリプション タイプを選択します。
- Acronis Backup をインストール 『16ページ』し、製品を起動してコンソールをバックアップが必要なコンピュータに接続し、[今すぐバックアップ] または [バックアップ計画の作成] をクリックし、[ロケーション]、[サブスクリプションを試用する] の順にクリックします。アカウントにログインします(まだ登録していない場合はアカウントを作成します)。試用サブスクリプションが自動的に作成され、コンピュータに割り当てられます。

## 4 ソフトウェア インストール

このセクションには、必要なソフトウェアおよび詳細なインストール手順の選び方についての情報が含まれています。

### 4.1 インストールする必要があるソフトウェア

Acronis Backup または Acronis Backup Advanced をダウンロードしてインストールします。クラウド ストレージのみにバックアップする場合は、プロダクト キーは不要です。

Acronis Backup を使用すると、バックアップ対象の各コンピュータでバックアップをローカルに設定および監視できます。Acronis Backup Advanced を使用すると、リモート管理および集中管理を実行できます。ローカル管理も使用可能です。

次のセクションでは、Acronis Backup Advanced について説明します。

### 4.2 Acronis Backup Advanced について

Acronis Backup Advanced には、次の主要コンポーネントが含まれています。

- **Acronis Backup エージェント for Windows:** データのバックアップと復元を実行します。
- **Acronis Backup エージェント for Linux:** データのバックアップと復元を実行します。
- **Acronis Backup 管理サーバー:** コンピュータ グループのバックアップなど、コンピュータの集中管理を行います。
- **Acronis Backup 管理コンソール:** コンピュータや管理サーバーに接続して、バックアップおよび復元を設定することができます。

コンピュータをバックアップできるようにするための最小構成には、エージェントおよび管理コンソールが含まれます。管理サーバーを追加することで、より強力な管理機能、およびシステムへの単一のエン트리 ポイントが得られます。

コンソールを管理サーバーに接続すると、サーバーに登録されている任意のコンピュータのバックアップまたは復元を実行できます。また、集中管理用バックアップ計画を作成して複数のコンピュータをバックアップすることもできます。さらにまた、個々のコンピュータにコンソールを接続して、バックアップおよび復元を直接コンピュータ上で実行することもできます。

バックアップする各コンピュータにエージェントをインストールします。管理サーバーは任意のコンピュータにインストールできます。このコンピュータは、継続的なサービスの提供が可能で、バックアップ対象のコンピュータにネットワーク接続できます。エージェント

と管理サーバーに GUI を提供する管理コンソールは、バックアップの設定と監視を行うコンピュータにインストールする必要があります。

## 4.3 サポートされるオペレーティング システム

### エージェント

「サポートされるオペレーティング システムと仮想化製品 『6ページ 』」に記載されている任意のサーバーまたはワークステーションのオペレーティング システムに、エージェントをインストールできます。

### 管理サーバー

管理サーバーは、次のいずれかのオペレーティング システムにインストールできます。

- Windows XP Professional SP3 (x86、x64)
- Windows Server 2003/2003 R2: Standard、Enterprise の各エディション (x86、x64)
- Windows Small Business Server 2003/2003 R2
- Windows Vista: Vista Home Basic および Vista Home Premium を除くすべてのエディション (x86、x64)
- Windows Server 2008: Standard、Enterprise、Datacenter の各エディション (x86、x64)
- Windows Small Business Server 2008
- Windows 7: Starter および Home Edition を除くすべてのエディション (x86、x64)
- Windows Server 2008 R2: Standard、Enterprise、Datacenter、Foundation の各エディション
- Windows MultiPoint Server 2010/2011/2012
- Windows Small Business Server 2011: すべてのエディション
- Windows 8/8.1: Windows RT Edition を除くすべてのエディション (x86、x64)
- Windows Server 2012/2012 R2: すべてのエディション
- Windows Storage Server 2003/2008/2008 R2/2012/2012 R2

### 管理コンソール

#### Windows

管理コンソールは、次のいずれかのオペレーティング システムにインストールできます。

- Windows XP Professional SP2 以降 (x86、x64)
- Windows Server 2003/2003 R2: Standard、Enterprise の各エディション (x86、x64)
- Windows Small Business Server 2003/2003 R2
- Windows Vista: すべてのエディション (x86、x64)
- Windows Server 2008: Standard、Enterprise、Datacenter、Web の各エディション (x86、x64)
- Windows Small Business Server 2008
- Windows 7: すべてのエディション (x86、x64)
- Windows Server 2008 R2: Standard、Enterprise、Datacenter、Foundation、Web の各エディション
- Windows MultiPoint Server 2010/2011/2012

Windows Small Business Server 2011: すべてのエディション

Windows 8/8.1: Windows RT Edition を除くすべてのエディション (x86、x64)

Windows Server 2012/2012 R2: すべてのエディション

Windows Storage Server 2003/2008/2008 R2/2012/2012 R2

#### Linux

「サポートされるオペレーティング システムと仮想化製品 『6ページ 』」に記載されている任意の Linux ディストリビューションに、コンソールをインストールできます。

## 4.4 Acronis Backup Advanced のインストール

Acronis Backup Advanced がいない場合は、製品のプロダクト キーなしでインストールします。クラウド ストレージにのみバックアップすることができます。

デフォルト設定を使用する場合の基本的なインストールの詳細な手順は、次のとおりです。詳細なインストール オプションが必要な場合は、**Acronis Backup Advanced** のインストール ドキュメントを参照してください。たとえば、エージェントをリモートでインストールしたり、グループ ポリシーを使用して Active Directory ドメイン経由でエージェントを展開したりできます。

### セットアップ プログラムのダウンロード

Acronis Backup Advanced セットアップ プログラムを

<http://www.acronis.co.jp/my/cloud-backup/corporate> からダウンロードします。この製品を Linux にインストールするには、追加のインストール ファイルをダウンロードします。

### 管理サーバー、管理コンソール、およびエージェントのインストール

以下の手順は、バックアップ対象のコンピュータにネットワーク接続している任意の Windows コンピュータ上で行います。

1. セットアップ プログラムを開始します。
2. **[Acronis Backup のインストール]** をクリックします。
3. 使用許諾契約に同意して、**[次へ]** をクリックします。
4. **[このコンピュータのデータをバックアップする]**、**[物理コンピュータと仮想コンピュータのバックアップを集中的に監視および構成する]**、および **[リモート コンピュータに接続する]** の各チェックボックスをオンにします。続行するには、**[次へ]** をクリックしてください。
5. **[ライセンスまたはサブスクリプションを購入しました]** をオンにしてから、**[次へ]** をクリックします。
6. 既にサブスクリプションを登録した場合またはコンピュータがインターネットに接続していない場合は、この手順を省略します。  
それ以外の場合は、以下の手順を実行します。
  - a. サブスクリプション登録コードを入力するか、テキスト ファイルからインポートします。サブスクリプション キーを Acronis License Server にインポートしないでください。
  - b. Acronis アカウント資格情報を入力します。Acronis アカウントがない場合は、**[アカウントの作成]** をクリックして、アカウント作成フォームを入力します。



7. 前の手順を省略した場合は、**[...のバックアップのライセンス]**で **[クラウド バックアップのみ: ライセンスは不要です]** を選択します。
8. **Windows** ヘログオンに使用するアカウントのパスワードを指定します。続行するには、**[次へ]** をクリックしてください。  
**詳細:** インストール時に、管理サーバーでエージェントを登録するには、パスワードが必要です。
9. コンピュータを **Acronis カスタマ エクスペリエンス プログラム (CEP)** に参加させるかどうかを選択します。続行するには、**[次へ]** をクリックしてください。
10. **[インストール]** をクリックして、インストールを続行します。
11. インストールが問題なく終了したら、**[完了]** をクリックしてウィザード ウィンドウを閉じます。

## ブータブル メディアの作成

この時点で、ブータブル メディアを作成することをお勧めします。

1. **Acronis Backup** を起動します。
2. **[ようこそ]** 画面で、**[ツール]** から **[ブータブル メディアの作成]** をクリックします。  
**Acronis ブータブル メディア ビルダ** ウィザードが表示されます。
3. 画面の指示に従います。

## エージェントのインストール

バックアップ対象の各コンピュータで以下の手順を実行します。

### Windows でのインストール

1. 管理者としてログオンし、セットアップ プログラムを開始します。
2. **[Acronis Backup のインストール]** をクリックします。
3. 使用許諾契約に同意して、**[次へ]** をクリックします。
4. **[このコンピュータのデータをバックアップする]** チェックボックスをオンにしてから、**[次へ]** をクリックします。
5. **[ライセンスまたはサブスクリプションを購入しました]** をオンにしてから、**[次へ]** をクリックします。
6. **[...のバックアップのライセンス]** で **[クラウド バックアップのみ: ライセンスは不要です]** を選択し、**[次へ]** をクリックして、次に確認ウィンドウで **[はい]** をクリックします。
7. **[今すぐ登録する]** をクリックして、次を指定します。
  - 管理サーバーの名前または IP アドレス。
  - 管理サーバーがインストールされているコンピュータの管理者のユーザー名とパスワード。

続行するには、**[次へ]** をクリックしてください。

**詳細:** セットアップ プログラムがコンピュータを自動的に管理サーバーに登録します。または、後でコンピュータを管理サーバーに追加できます。

8. コンピュータを **Acronis カスタマ エクスペリエンス プログラム (CEP)** に参加させるかどうかを選択します。続行するには、**[次へ]** をクリックしてください。
9. **[インストール]** をクリックして、インストールを続行します。

10. インストールが問題なく終了したら、**[完了]** をクリックしてウィザード ウィンドウを閉じます。

### Linux でのインストール

32 ビット版コンピュータ用の **AcronisBackupAdvancedAgentL.i686** インストール ファイルと、64 ビット版コンピュータ用の **AcronisBackupAdvancedAgentL64.x86\_64** インストール ファイルを使用します。ルート ユーザーとしてファイルを実行し、画面の指示に従います。

## 5 Acronis Backup の起動

管理コンソールを起動するには、**[スタート]** メニューから **[Acronis] → [Acronis Backup 管理コンソール] → [Acronis Backup]** を選択します。

管理コンソールからは、以下のいずれかの方法でエージェントがインストールされているコンピュータを管理できます。

- コンピュータに直接接続する方法
- 管理サーバーを使用する方法

### コンピュータに直接接続するには

1. **[このコンピュータの管理]** または **[リモート コンピュータの管理]** をクリックします。
2. リモート コンピュータを管理する場合は、コンピュータ名または IP アドレスを入力します。
3. 資格情報の入力を求められた場合は、ユーザー名とパスワードを指定します。リモートコンピュータを管理する場合、このユーザーは、コンピュータの **Acronis Remote Users** グループのメンバである必要があります。

### 管理サーバーへに接続するには

1. **[管理サーバーへの接続]** をクリックします。
2. サーバーの名前または IP アドレスを入力します。
3. 資格情報の入力を求められた場合は、ユーザー名とパスワードを指定します。このユーザーは、サーバー上の **Acronis Remote Users** および **Acronis Centralized Admins** グループのメンバである必要があります。

このドキュメントの後半で説明する詳細な手順では、管理サーバーを経由したコンピュータの管理に重点を置いています。

管理コンソールは、このドキュメントの後半では「コンソール」と呼ばれています。

## 6 プロキシ設定の構成

エージェントをインストールした 1 台または複数台のコンピュータがプロキシ サーバー経由でインターネットに接続している場合は、そのプロキシ サーバーを使用するように各エージェントを構成する必要があります。

管理サーバーは、クラウド バックアップ サブスクリプションに関する情報を取得するためにインターネットに接続します。管理サーバーに対するプロキシ設定も、構成する必要があります。

エージェントと管理サーバーが同じコンピュータにインストールされている場合でも、それぞれのプロキシ設定は別々に構成します。

#### エージェントのプロキシ設定を構成するには

1. プロキシ設定を構成するコンピュータにコンソールを接続します。
2. **[オプション]** メニューで **[コンピュータ オプション]** をクリックします。
3. **[Cloud Backup プロキシ]** をクリックします。
4. プロキシ サーバーの設定を入力します。設定の詳細については、状況依存ヘルプを参照してください。
5. プロキシ サーバー経由でインターネットに接続するすべてのコンピュータで、手順 2 ~ 4 を繰り返します。

#### 管理サーバーに対するプロキシ設定を構成するには

1. コンソールを管理サーバーに接続します。
2. **[オプション]** メニューで **[管理サーバー オプション]** をクリックします。
3. **[Cloud Backup プロキシ]** をクリックします。
4. プロキシ サーバーの設定を入力します。設定の詳細については、状況依存ヘルプを参照してください。

## 7 クラウド バックアップのサブスクリプションのアクティブ化

コンピュータでサブスクリプションをアクティブ化すると、コンピュータをクラウド ストレージにバックアップできます。

**ボリューム** サブスクリプションは、Acronis Cloud Storage へのコンピュータのバックアップを開始するとすぐに自動的にアクティブ化されます。

**コンピュータ** サブスクリプション (サーバーまたは PC) も、アカウントで使用可能なすべてのサブスクリプションのタイプが同じで、ストレージのクォータが同じ場合、自動的にアクティブ化されます。さまざまなサブスクリプションがアカウントにある場合は、バックアップ計画の作成時または手動アクティブ化 (このセクションで説明) の実行時に、アクティブ化するサブスクリプションを選択します。コンピュータ サブスクリプションのサブスクリプション期間は、アクティブ化した時点から開始します。

---

**重要** アカウントの最初のサブスクリプションを有効化する前に、プロフィールで選択した国を確認してください。この国に応じて、サービスでバックアップが送信されるデータセンターが決まります。クラウド ストレージにバックアップするすべてまたはほとんどのコンピュータが存在する国を選択してください。そのようにしないと、データの送信距離が必要以上に長くなることがあります。後で、プロフィールで国を変更した場合でも、データセンターは変更できません。プロフィールにアクセスするには、Acronis の Web サイトにアクセスして、アカウントにログインし、**[個人プロフィール]** をクリックします。

---

## 7.1 Acronis Backup Advanced でのサブスクリプションの有効化

最初に、サブスクリプションを有効化するコンピュータが管理サーバーに登録され、使用可能である（オンになっている）ことを確認します。

ESX(i) 仮想コンピュータをバックアップする必要がある場合は、「仮想コンピュータのバックアップ」ドキュメントの「エージェント for VMware バインド」セクションの説明に従ってそれらをエージェント for VMware にバインドします。サブスクリプションを有効化の場合は、エージェントが実行されているコンピュータを選択します。

**サブスクリプションを有効化する手順は、次のとおりです。**

1. コンソールを管理サーバーに接続します。
2. **[アクション]** メニューで **[Cloud Backup サブスクリプションのアクティブ化]** をクリックします。
3. クラウド ストレージにログインするための資格情報を指定します。
4. **[ワークステーション]** または **[サーバー]** の一覧から任意の数のコンピュータを選択し、**[サブスクリプションの選択]** をクリックします。
5. コンピュータで有効化するサブスクリプションの種類を選択します。選択したコンピュータ数と同じ数以上のサブスクリプションを選択する必要があります。
6. **[今すぐアクティブ化する]** をクリックします。
7. サブスクリプションを有効化する他のコンピュータについて前の 3 つの手順を実行します。

または、コンソールが管理サーバーではなくコンピュータに接続されたときにサブスクリプションを有効化することもできます。

## 7.2 有効化されているサブスクリプションの再割り当て

利用可能なサブスクリプションではなく、既に有効化されているサブスクリプションを使用する必要が生じる場合があります。たとえば、次のような場合です。

- コンピュータの 1 つをバックアップする必要がなくなり、そのコンピュータのサブスクリプションを別のコンピュータに再利用する場合。
- Acronis Backup をコンピュータに再インストールして、クラウド バックアップを再開する場合。
- コンピュータをベア メタル (または有効化されているサブスクリプションがまだなかったときの状態) に復元し、クラウド バックアップを再開する場合。

サブスクリプションを再割り当てしても、そのサブスクリプションの期間は再開できません。

**有効化されているサブスクリプションをコンピュータに割り当てるには**

1. 有効化されているサブスクリプションを割り当てるコンピュータで、サブスクリプションの有効化ウィンドウに移動します。
2. **[すでに使用しているサブスクリプションの再割り当て]** をクリックします。
3. 現在のコンピュータに再割り当てするサブスクリプションがあるコンピュータを選択します。

4. [今すぐ再割り当て] をクリックします。

## 例

別のコンピュータにサブスクリプションを再割り当てした場合の例を、次の図に示します。たとえば、「サブスクリプション 1」の「コンピュータ 1」に 4 つのバックアップが存在するとします。「サブスクリプション 2」の「コンピュータ 2」には 2 つのバックアップがあり、「サブスクリプション 1」を「コンピュータ 2」に再割り当てしたいとき、「コンピュータ 2」は 3 つめのバックアップを「サブスクリプション 1」に対して実行しました。

このバックアップが完全バックアップと増分バックアップのどちらになるのかは、設定によって異なります。しかし、このサイズが完全バックアップのサイズよりも小さくなることはありません。そのため、最初のバックアップが初期シードとして行われたコンピュータにサブスクリプションを再割り当てするのは実用的ではありません。初期シードをやり直す（新しいライセンスが必要です）か、非常に大きなバックアップをインターネット経由で転送する必要があります。



以前作成されたバックアップは、すべてそのまま残されます。これらは、必要に応じて手動で削除できます。ただし、バックアップをサブスクリプションから削除できるのは、サブスクリプションが割り当てられているコンピュータに限られます。この例では、次のオプションを選択できます。

## 再割り当て前

「コンピュータ 1」を使用してバックアップを「サブスクリプション 1」から削除します（コンピュータが使用可能で稼動している場合）。「コンピュータ 2」を使用してバックアップを「サブスクリプション 2」から削除します。

### 再割り当て後

「コンピュータ 2」を使用してバックアップを「サブスクリプション 1」から削除します。このサブスクリプションをその他のコンピュータに割り当てていない限り、「サブスクリプション 2」からバックアップを削除することはできません。

## 8 クラウド バックアップ専用の集中管理用格納域の作成

この手順では、クラウド ストレージに集中管理用格納域を作成します。これにより、管理サーバーと管理対象コンピュータの両方から、将来のすべてのバックアップに簡単にアクセスできるようになります。

### 集中管理用格納域を作成するには

1. コンソールを管理サーバーに接続します。
2. **[ナビゲーション]** ツリーで、**[格納域]** をクリックし、**[作成]** をクリックします。
3. **[名前]** に、ショートカットの名前を入力します（例: Cloud vault）。
4. **[種類]** で **[管理対象外]** を選択します。
5. **[パス]** をクリックします。バックアップ保存先の一覧で、**[クラウド ストレージ]** をクリックします。
6. **[ログイン]** をクリックし、クラウド ストレージへのログイン情報を指定します。
7. **[OK]** をクリックしてウィンドウを閉じます。
8. **[OK]** をクリックして格納域を作成します。

## 9 クラウド ストレージへのバックアップ

このセクションでは、クラウド ストレージにデータをバックアップするための詳細な手順について説明します。

この手順は、以下で説明する一般的なシナリオを対象としています。この手順に示されるスケジュール、バックアップする項目、またはコンピュータの一覧を変更することにより、ニーズに最も適したバックアップ戦略を設定できます。バックアップの詳細については、Acronis Backup Advanced のビルトイン ヘルプを参照してください。

### シナリオ

30 台のワークステーションと 2 台のサーバーを使用していて、どちらかがファイル サーバーであると仮定します。このセクションでは、次のバックアップ戦略の設定方法について説明します。

- ファイル サーバーのファイルの毎日のバックアップ、および 1 年以上経過しているバックアップの削除。「個々のコンピュータのバックアップ」を参照してください。



- ワークステーションのユーザー ファイルの毎日のバックアップ、および 1 か月以上経過しているバックアップの削除。「複数のコンピュータのバックアップ」を参照してください。
- オペレーティング システムおよび両方のサーバーにインストールされているプログラムの月単位のバックアップ（ハードドライブに送信される最初の（大規模）バックアップを含む）、および 6 ヶ月以上経過しているバックアップの削除。「初期シードを使用したバックアップ」を参照してください。

---

地域によっては初期シード サービスが使用できないことがあります。詳細については、こちらをクリックしてください。 <http://kb.acronis.com/content/15118>  
[『http://kb.acronis.com/content/15118』](http://kb.acronis.com/content/15118) .

---

Acronis Backup Advanced では、個々のコンピュータはバックアップ計画に従ってバックアップされます。集中管理用バックアップは、集中管理用バックアップ計画を使用して実行されます。

## 9.1 個々のコンピュータのバックアップ

この手順では、コンピュータからクラウド ストレージにファイルを毎日バックアップするためのバックアップ計画を設定します。同様の手順を使用して、コンピュータのボリュームやコンピュータ全体をバックアップできます。

**コンピュータをクラウド ストレージにバックアップするには**

1. バックアップするコンピュータにコンソールを接続します。
2. **[バックアップ計画の作成]** をクリックします。
3. **[バックアップの対象]** の下で、**[バックアップする項目]** をクリックします。
4. **[バックアップするデータ]** で **[ファイル]** を選択し、バックアップするファイルおよびフォルダを選択します。**[OK]** をクリックしてウィンドウを閉じます。
5. **[バックアップ先]** で **[ロケーション]** をクリックして、クラウド ストレージを選択します。まだ認証を受けていない場合は、**[ログイン]** をクリックして、クラウド ストレージの資格情報を指定します。
6. デフォルトのアーカイブ名を変更することもできます。**[OK]** をクリックしてウィンドウを閉じます。
7. **[バックアップ方法]** の **[バックアップ スキーム]** で、**[シンプル]** を選択します。  
**詳細:** このスキームでは、最初に完全バックアップを実行し、次に増分バックアップを実行します。各バックアップは、デフォルトのスケジュールで実行されます。
8. **[保持ルール]** で **[次より古いバックアップは削除する:]** を選択して、値を 12 ヶ月と指定します。
9. **[OK]** をクリックして、バックアップ計画を保存します。  
**詳細:****[バックアップの計画およびタスク]** ビューには、直前に作成したバックアップ計画が表示されます。

## 9.2 複数のコンピュータのバックアップ

この手順では、管理サーバーに登録されているすべての Windows コンピュータからクラウド ストレージにユーザー ファイルをバックアップするための集中管理用バックアップ計画

を設定します。同様の手順を使用して、コンピュータのボリュームやコンピュータ全体をバックアップできます。

### 複数のコンピュータをクラウド ストレージにバックアップするには

1. コンソールを管理サーバーに接続します。
2. **[バックアップ計画の作成]** をクリックします。
3. **[バックアップの対象]** の下で、**[バックアップする項目]** をクリックします。
4. **[バックアップするデータ]** で、**[ファイル]** を選択します。
5. **[ポリシー ルールを使用して選択]** を選択します。
6. **[次のルールを使用する]** で **[すべてのプロファイル フォルダ]** を選択し、次に **[ルールの追加]** をクリックします。
7. **[%ALLUSERSPROFILE%]**、**[削除]** の順にクリックします。  
詳細: この選択ルールは、Windows ユーザーのファイル (C:\Documents、Settings and C:\Users, など) が格納されているフォルダが、コンピュータ上のどこにあるかにかかわらずバックアップされることを意味します。この同じポリシーに、さらに選択ルールを追加することができます。
8. **[管理サーバー]** チェックボックスをオンにします。 **[OK]** をクリックしてウィンドウを閉じます。
9. **[バックアップ先]** で **[ロケーション]** をクリックします。
10. フォルダー ツリーで **[集中管理]** を展開し、集中管理用のクラウド格納域を選択します。メッセージが表示されたら、クラウド ストレージの資格情報を指定します。
11. デフォルトのアーカイブ名を変更することもできます。 **[OK]** をクリックしてウィンドウを閉じます。
12. **[バックアップ方法]** の **[バックアップ スキーム]** で、**[シンプル]** を選択します。  
詳細: このスキームでは、最初に完全バックアップを実行し、次に増分バックアップを実行します。各バックアップは、デフォルトのスケジュールで実行されます。
13. **[保持ルール]** で **[次より古いバックアップは削除する:]** を選択して、値を 1 ヶ月と指定します。
14. **[OK]** をクリックして、バックアップ計画を保存します。  
詳細: **[バックアップの計画およびタスク]** ビューには、直前に作成したバックアップ計画が表示されます。

## 10 クラウド格納域に保存されているバックアップへのアクセス

### クラウド格納域に保存されているバックアップにアクセスするには

1. コンソールを管理サーバーまたは管理対象のコンピュータに接続します。
2. **[ナビゲーション]** ツリーで、**[格納域]**、**[集中管理]** の順に展開して、格納域名をクリックします。



## 11 クラウド ストレージに保存されているバックアップの操作

コンソールがコンピュータに接続されている場合は、クラウド ストレージに保存されているバックアップを使用して次の操作を実行できます。

- コンピュータのバックアップの内容を表示する
- 任意のコンピュータの任意のバックアップのデータを復元する 『25ページ』
- コンソールが接続されているコンピュータの任意のバックアップを削除する

---

コンソールが管理サーバーに接続されている場合は、バックアップを削除することはできません。

---

これらの操作の詳細については、Acronis Backup Advanced のビルトイン ヘルプの「バックアップの操作」セクションを参照してください。

## 12 クラウド ストレージからのバックアップ

このセクションでは、クラウド ストレージからデータを復元するための詳細な手順について説明します。

### 12.1 ファイルの復元

クラウド ストレージに保存されているバックアップから指定したフォルダにファイルを復元する手順は、次のとおりです。

クラウド ストレージからファイルを復元する手順は、次のとおりです。

1. コンソールを管理サーバーに接続します。
2. **[復元]** をクリックします。
3. **[データの選択]**、**[データ パス]**、**[参照]** の順にクリックします。
4. **[集中管理]** を展開して、集中管理用のクラウド格納域を選択します。メッセージが表示されたら、クラウド ストレージの資格情報を指定します。**[OK]** をクリックして、選択を確定します。
5. データを復元するバックアップを選択します。
6. 選択したバックアップがディスク レベルのバックアップである場合、**[バックアップ内容]** で **[ファイル]** を選択します。バックアップがファイル レベルのバックアップである場合、この手順をスキップします。
7. 復元するファイルを選択します。**[OK]** をクリックして、選択を確定します。  
**詳細:** ここでは、アーカイブ内に複数のバックアップが存在する場合にファイルを戻す日付時刻を指定できます。
8. **[Specify the machine where to create the task]** (タスクを作成するコンピュータを指定してください) をクリックして、復元するコンピュータを選択します。**[OK]** をクリックして、選択を確定します。
9. **[復元先]**、**[新しい場所]** の順にクリックして、ファイルの復元先のフォルダを指定します。または、このフォルダをフォルダ ツリーから選択することもできます。

**ヒント:-** デフォルトでは、ファイルはバックアップ元の場所に復元されます。オペレーティング システムによってロックされているファイルがあると、再起動が必要になることがあります。

10. **[OK]** をクリックして直ちに復元を開始します。

**詳細:** ウィンドウに復元タスクの詳細が表示されます。

## 12.2 ボリュームの復元

次の手順では、クラウド ストレージに保存されているディスク バックアップからコンピュータのシステム ボリュームとブート ボリュームを復元する方法を示します。

**クラウド ストレージからシステム ボリュームとブート ボリュームを復元する手順は、次のとおりです。**

1. 復元するコンピュータにコンソールを接続します。
2. **[復元]** をクリックします。
3. **[データの選択]** をクリックしてから、**[参照]** をクリックします。
4. **[集中管理]** を展開して、集中管理用のクラウド格納域を選択します。メッセージが表示されたら、クラウド ストレージの資格情報を指定します。**[OK]** をクリックして、選択を確定します。
5. データを復元するバックアップを選択します。
6. **[バックアップ内容]** で **[ボリューム]** を選択します。
7. システム ボリュームとブート ボリュームを選択します。**[OK]** をクリックして、選択を確定します。

**詳細:** システム ボリュームとブート ボリュームをラベルで識別できることが前提となります。Windows 7 および Windows Server 2008 R2 より前の Windows オペレーティング システムの場合、システム ボリュームとブート ボリュームは通常同じです。

8. **[復元先]** で、マスター ブート レコード (MBR) の復元先のディスクを選択します。
9. 復元のために選択した各ボリュームを、宛先ディスク上のボリュームまたは未割り当て領域にマップします。
10. **Universal Restore** 機能を使用してシステムを異なるハードウェアに復元する場合、そのハードウェアのマザーボード、大容量記憶装置、およびネットワーク アダプタのドライバへのパスを指定します。

**ヒント:** ターゲット ハードウェアに RAID (特に NVIDIA RAID)、ファイバ チャネル アダプタなどの特定の大容量記憶装置コントローラがある場合、これら用の大容量記憶装置のドライバを明示的に指定します。これを行うには、**[インストールする大容量記憶装置ドライバ]** をクリックしてからドライバを指定します。

11. **[OK]** をクリックして直ちに復元を開始します。

**詳細:** ウィンドウに復元タスクの詳細が表示されます。

## 12.3 大規模復元を使用した復元

次の手順では、ディスク バックアップからコンピュータのシステム ボリュームとブート ボリュームを復元します。大規模復元サービスを使用して、インターネット経由ではなくハード ディスク上のクラウド ストレージからバックアップを取得します。

この方法でバックアップを取得するコンピュータごとに、大規模復元ライセンスと呼ばれる個別のライセンスが必要になります。

---

**注意:** システム ボリュームを復元するには、コンピュータを再起動する必要があります。

---

**大規模復元を使用してデータを復元する手順は、次のとおりです。**

#### バックアップの取得

アカウント管理ウェブ ページで、以下の手順を実行します。

1. まだ大規模復元ライセンスを持っていない場合は、購入します。
2. 次のように指定して、大規模復元を注文します。
  - バックアップを取得するコンピュータ。
  - ハードドライブの送信先のアドレス。

注文後に、ハード ドライブが到着するまで待機します。ハード ドライブはユーザーのものになります。

#### 復元前の他の注意点

- コンピュータでデータを復元できる回数に制限はありません。
- アーカイブが暗号化されているか、パスワードで保護されている場合は、バックアップ時に自分自身または同僚が設定したパスワードを入力する必要があります。Acronis には、アーカイブのパスワードは通知されません。

#### データの復元

---

**注意:** 次の手順では、システムが起動可能であること、およびエージェントがコンピュータで使用可能であることを想定しています。システムが破損している場合は、ブータブル メディアを使用する必要があります。システムを復元するには、このメディアを使用してコンピュータを起動して、同様の手順を実行してください。

---

1. 受け取ったハード ドライブを、復元するコンピュータに接続します。または、このコンピュータからアクセス可能なネットワーク共有にこのハード ドライブの内容をコピーできます。
2. 復元するコンピュータにコンソールを接続します。
3. **[復元]** をクリックします。
4. **[データの選択]** をクリックしてから、**[参照]** をクリックします。接続されているディスクまたはネットワーク共有を参照します。**[OK]** をクリックして、選択を確定します。
5. 手順 5 から始まる「ボリュームの復元 『26ページ 』」の説明に従って続行します。

復元の詳細については、状況依存ヘルプを参照してください。

## 13 Web ブラウザを使用したクラウド ストレージからのファイルの取得

Web ブラウザを使用して、Acronis Cloud Storage の参照、ファイル レベル アーカイブの内容の表示、および選択したファイルとフォルダのダウンロードを行うことができます。

次のブラウザでこれらの操作がサポートされます。

- Internet Explorer 7 以降
- Mozilla Firefox 3.5 以降
- Google Chrome 10 以降
- Safari 5.0.5 以降

クラウド ストレージからファイルを取得する手順は、次のとおりです。

1. アカウント管理 Web ページ 『10ページ』 にアクセスして、**[Acronis Cloud からのファイルの復元]** をクリックします。指定されたアカウントを使用してバックアップしたコンピュータの一覧が表示されます。ボリューム サブスクリプションを選択すると、このサブスクリプションを共有するコンピュータの一覧が表示されます。


2. 取得するデータがあるコンピュータの名前をクリックします。このコンピュータのデータのファイル レベル アーカイブとディスク レベル アーカイブの両方が表示されます。

**初期シード サービスを使用するユーザー向けの注意:**初期シード バックアップをハードドライブから Acronis Cloud Storage にアップロードする間、バックアップは表示されますが、データは取得できません。

3. 必要なファイル レベル アーカイブをクリックします。メッセージが表示されたら、アーカイブのパスワードを入力します。このアーカイブにバックアップしたすべてのファイルとフォルダが表示されます。
4. 必要に応じて、必要なフォルダを参照するか、検索を使用して必要なファイルとフォルダの一覧を取得してください。

**詳細:** 検索ストリングには、1 つ以上のワイルドカード文字 \* および ? を含めることができます。

5. 次のいずれかを実行します。

- 単一のファイルまたはフォルダの最新バージョンを取得するには、単に名前をクリックします。
- 複数のファイルとフォルダの最新バージョンを取得するには、そのバージョンの左側にあるチェック ボックスをオンにして、**[ダウンロード]** ボタンをクリックします。
- 単一のファイルの以前のバージョンを取得するには、そのバージョンの右側にある  アイコンをクリックして、**[バージョンの表示]** を選択します。これで、バージョン一覧が示されたウィンドウが開きます。このウィンドウで、必要なバージョンをその日付と時刻で選択して、**[ダウンロード]** をクリックします。
- （検索を使用した場合は使用不可）複数のファイルとフォルダの以前のバージョンを取得するには、**[バージョン]** 一覧から必要な日付と時刻を選択します。ファイルとフォルダの左側にあるチェック ボックスをオンにして、**[ダウンロード]** ボタンをクリックします。

**詳細:** 以前にバックアップされ、選択した時点に最も近いファイルとフォルダのバージョンを取得します。

6. 選択したファイルをダウンロードするには、**[保存]** をクリックします。

**詳細:** 単一のファイルを選択した場合、そのままダウンロードされます。それ以外の場合、選択したデータは .zip ファイルにアーカイブされます（デフォルトでは AcronisArchive.zip という名前が付けられます）。

7. データの保存先の場所を選択してから、**[保存]** をクリックします。

## 14 クラウド ストレージの制限

Acronis Backup で使用可能な他のタイプのストレージとは異なり、クラウド ストレージには次の制限があります。

### 操作

次の操作を行うことはできません。

#### バックアップ操作:

- ブータブル メディアからのバックアップ
- エージェント for Exchange を使用したバックアップ
- 差分バックアップの作成
- [カスタム] バックアップ スキームの使用
- バックアップ ファイル名指定の簡略化
- 複数の仮想コンピュータの同時ホスト ベース バックアップ
- 仮想コンピュータにバックアップを定期的に変換する設定

#### バックアップの操作:

- バックアップのベリファイ\*
- バックアップのエクスポート
- バックアップのマウント
- クラウド ストレージからのバックアップのレプリケートまたは移動
- 増分バックアップから完全バックアップへの変換

#### アーカイブの操作 (アーカイブはバックアップのセットです)

- アーカイブのベリファイ
- アーカイブのエクスポート

これらの制限事項は、初期シードを使用したデータのバックアップ、および大規模復元を使用したデータの復元にも適用されます。

\* 初期シード バックアップは、作成直後に自動的にベリファイされます。

### バックアップおよび復元オプション

バックアップおよび復元オプションの中には、クラウド バックアップによってサポートされていないものもあります。たとえば、バックアップの分割です。

[バックアップの作成速度] → [ネットワークの接続速度] オプションを使用して、転送速度をKB/秒単位でさまざまに変化させられますが、パーセント値では変化させられません。

## 15 テクニカル サポート

### 保守サポート プログラム

Acronis 製品に関するサポートが必要な場合には、<http://www.acronis.co.jp/support/> にアクセスしてください。

## 製品アップデート

マイ アカウント (<https://www.acronis.co.jp/my>) にログインし、製品を登録していただきますと、お客様がお使いのすべての Acronis ソフトウェアの最新アップデートを弊社ウェブサイトよりダウンロードすることができます。**Acronis 製品をウェブサイトで登録するには(英語)** (<http://kb.acronis.com/content/4834>)および**アクロニス ウェブ サイトのユーザーガイド(日本語)** (<http://kb.acronis.com/content/8128>)をご参照ください。

## 著作権情報

Copyright © Acronis International GmbH, 2002-2015. All rights reserved.

「Acronis」および「Acronis セキュア ゾーン」は、Acronis International GmbH の登録商標です。

「Acronis Compute with Confidence」、「Acronis Startup Recovery Manager」、「Acronis Active Restore」、「Acronis Instant Restore」、および Acronis ロゴは、Acronis International GmbH の商標です。

Linux は、Linus Torvalds の登録商標です。

VMware および VMware Ready は、VMware, Inc. の米国ならびにその他の地域における商標または登録商標です。

Windows および MS-DOS は、Microsoft Corporation の登録商標です。

ここに記載されているその他すべての商標および著作権は、それぞれの権利所有者に帰属します。

著作権所有者の明示的な許可なく本ドキュメントの実質的な修正版を配布することは禁止されています。

著作権所有者からの事前の許可がない限り、いかなる形態（紙媒体など）であっても商業目的で本ドキュメントまたはその派生物を配布することは禁止されています。

ドキュメントは、「現状のまま」で提供され、商品性に対する黙示的保証、特定の目的に対する適合性、権利を侵害していないことなどを含む明示的または黙示的な条件、言明、および保証に関する責任を負いません（免責条項の範囲が法的に無効と見なす場合を除く）。

本ソフトウェアまたはサービスにサードパーティのコードが付属している場合があります。サードパーティのライセンス条項の詳細については、ルート インストール ディレクトリにある `license.txt` ファイルをご参照ください。本ソフトウェアまたはサービスと共に使用するサードパーティ コードおよび関連するライセンス条項の最新の一覧については、<http://kb.acronis.com/content/7696> をご参照ください。

## Acronis の特許取得済みの技術

この製品で使用されている技術は、以下の番号の米国特許のうち 1 つ以上の保護対象です。  
7,047,380; 7,275,139; 7,281,104; 7,318,135; 7,353,355; 7,366,859; 7,475,282; 7,603,533; 7,636,824; 7,650,473; 7,721,138; 7,779,221; 7,831,789; 7,886,120; 7,895,403; 7,934,064; 7,937,612; 7,949,635; 7,953,948; 7,979,690; 8,005,797; 8,051,044; 8,069,320; 8,073,815; 8,074,035; 8,145,607; 8,180,984; 8,225,133; 8,261,035; 8,296,264; 8,312,259; 8,347,137; 8,484,427; 8,645,748; 8,732,121 および出願中特許。

## 16 用語集

### コンピュータへのサブスクリプションの割り当て

現在のサブスクリプションを更新 『32ページ』 するために、特定のコンピュータのサブスクリプションを予約します。

### サブスクリプション

特定の期間、クラウド ストレージ内の特定量の領域を、1 台または複数台のコンピュータが使用することに対する許可。

### サブスクリプションの割り当て解除

割り当てられたサブスクリプションを再度使用可能にします。

サブスクリプションは、有効化されていない限り割り当て解除できます。

### サブスクリプションの更新

現在の有効化されているサブスクリプションと同じ種類で、同規模以上の大きさのストレージ クォータを持つサブスクリプションを割り当てます 『32ページ』。

このサブスクリプションは、現在のサブスクリプションの有効期限が切れるとすぐに有効化されます。

### サブスクリプションの再割り当て

既に有効化されているサブスクリプションを別のコンピュータに割り当てます。

### サブスクリプションの有効化

サブスクリプションに従ってコンピュータでクラウド ストレージを使用できるようにします。

### サブスクリプション期間

サブスクリプションが有効なままになる期間。この期間中にコンピュータをバックアップして復元できます。この期間の終了後、さらに 30 日間復元が可能です。

### ストレージ クォータを増やす

あるサブスクリプション 『32ページ』 を、より大きなストレージ クォータを持つ別のサブスクリプションを置き換えます。残りのサブスクリプション期間 『32ページ』 は、容量の増加に比例して減少します。

### ストレージのクォータ

サブスクリプション 『32ページ』 に従って占有できる記憶域スペースの量。



## ライセンス

Acronis Cloud Backup のその他のサービス 『33ページ』 をコンピュータで使用するための許可。

初期シード ライセンスおよび大規模復元ライセンス、またはそのいずれかを購入できます。

## 漢字

### 割り当てられたサブスクリプション

コンピュータに割り当てられている 『32ページ』 サブスクリプション。

### 初期シード

最初の完全バックアップをローカルに保存してから、ハード ディスク ドライブの Acronis に送信できるようにするその他のサービス 『33ページ』。Acronis は、バックアップをクラウド ストレージにアップロードします。その後、増分バックアップをこの完全バックアップに手動で追加するかスケジュールに従って追加できます。

地域によっては初期シード サービスが使用できないことがあります。詳細については、こちらをクリックしてください。 <http://kb.acronis.com/content/15118> 『<http://kb.acronis.com/content/15118>』。

### 大規模復元 (LSR)

クラウド ストレージにあるバックアップのコピーを取得できるようにするその他のサービス 『33ページ』。その後、このコピーからデータを復元できます。

地域によっては大規模復元サービスが使用できないことがあります。詳細については、「<http://kb.acronis.com/content/15118> 『<http://kb.acronis.com/content/15118>』」を参照してください。

### 追加のサービス

クラウド バックアップ サブスクリプション 『32ページ』 に加えて使用できるサービス。

### 登録コード

Acronis パートナーから購入したサブスクリプション 『32ページ』 またはライセンス 『32ページ』 を登録するための文字ストリング。

サブスクリプションまたはライセンスを購入すると、それぞれの登録コードが記載された確認の電子メールが送信されます。受信した登録コードは、アカウント管理 Web ページに入力することで、サブスクリプションやライセンスが利用可能になります。

### 有効化されているサブスクリプション

現在コンピュータによって使用されているサブスクリプション。

## 利用可能なサブスクリプション

どのコンピュータにも割り当てられていないサブスクリプション。